

グローバル競技大会 男子ゲームレポート①

【予選リーグ①】 対ポルトガル 7月7日(火) 14:00～ 会場: Tip sport Arena Liberec

POR 9 6	29 - 6	4 7 JPN	<得点> 日本 ⑤鈴木16点・⑨藤谷6点・⑬中野6点
	30 - 15		
	19 - 15		
	18 - 11		

スタート: ポルトガル ⑤PEREIRA、⑦SANTOS、⑨DUARTE、⑩NUNES、⑮MARTIN
日本 ⑤鈴木、⑦高橋、⑨藤谷、⑪横田、⑬中野

大会初日は前回の世界選手権優勝国であるポルトガルと対戦。ポルトガルは200cmを超える選手は存在しないものの、ベテラン選手が多く若手で臨む日本がどこまで戦えるかがポイントとなる。

<第1P>

ポルトガル2-1-2ハーフコートゾーンディフェンスに対し、日本は2-2-1オールコートゾーンディフェンスで始まる。

ポルトガルの高さに対し、思うように攻めきれず苛立つ日本はターンオーバーを開始早々に連発する。オフェンスの終わり方が非常に悪く、それ以前の判断も良くない。その中で⑨藤谷がポルトガルのゾーンに対し、アグレッシブにドライブインをしてファウルを誘う。フリースローを確実に2本決め、13-2となる。その後⑤鈴木、⑪横田のシュートで29対6とし終了。

<第2P>

第1ピリオド同様に動きの固さや判断力が悪く同じような展開となる。対するポルトガルは⑧LOPES、⑤PEREIRA等の3ポイントが決まり、完全にポルトガルペースとなる。途中、タイムアウトを取り、日本チームは再度指示をし直し⑬中野のゴール下、⑤鈴木の3ポイント、⑪横田のペリメータ付近でのシュートが決まり、48対21と前半を終える。

<第3P>

開始早々、⑨藤谷のペリメータ付近でのシュート、⑦高橋、⑤鈴木の3ポイントシュートも決まり、2-2-1オールコートゾーンディフェンスも何本か成功し、活気が出始める。対するポルトガルも⑤PEREIRA、⑦SANTOSを中心に高さを生かしたプレイが目立つ。このピリオドだけでは19対15と互角に戦う。

<第4P>

⑦高橋の疲労が出始め、⑫野沢をポイントガードとして起用する。持前の素早い動きにポルトガルも戸惑い、何本かカットに成功する。⑨藤谷が果敢にゴールへ狙い始め相手のファウルを誘う。最終的に96対47でポルトガルが勝利を収めたが、日本も多くの収穫を得たゲームであった。

グローバル競技大会 男子ゲームレポート②

【予選リーグ②】 対ブラジル 7月8日(水) 9:00～ 会場: Tip sport Arena Liberec

JPN 66	15-23	127 BRA
	20-37	
	15-36	
	16-31	

<得点>
日本 ⑤鈴木18点、⑪横田10点、⑨藤谷10点

スタート: 日本 ⑤鈴木、⑦高橋、⑨藤谷、⑪横田、⑬中野
ブラジル ⑧LIMA、⑨BATISTA、⑩FERAIRA、⑫SANCHES、⑬MALADIAS

大会2日目、同リーグのブラジルと対戦。シドニーパラリンピックでは第3位の実力を持ち、⑨BATISTA (205cm)、⑫SANCHES (184cm) の2人を中心としたチーム構成である。

<第1P>

開始早々、ブラジル⑫SANCHESの3ポイントが決まる。ゲームの入り方が心配された日本だが、⑪横田のゴール下、⑤鈴木、⑦高橋は積極的に攻め相手のファウルを誘いながらのシュートが決まり、一進一退の攻防が続く。ブラジルは⑨BATISTA (205cm) を中心にオフェンスを組立てるも、日本のインサイドを守る⑨藤谷、⑪横田、⑬中野が必至に守り、リバウンドからファーストブレイク、アーリーオフェンスで得点を重ねる。途中、⑦高橋、⑪横田をベンチに下げ、④齊藤、⑧堀を投入。15対23の8点のビハインドで第1ピリオドを終了。

<第2P>

日本は状況判断の甘さからミスを続け、ブラジルに連続得点を許す。2-1-2のオールコートゾーンプレスを試みるも1線と2線のコミュニケーションが上手くいかず、簡単にロングパスを出され、アウトナンバーでシュートをされるケースが多く、流れは変わらず。対するブラジルは外角からのシュート成功率は低いものの日本のディフェンスの隙を衝きペイントエリア内でのシュートが目立つ。途中出場した⑫野沢がラストシュートを決め、35対60で前半を終了とする。

<第3P>

第3ピリオドに入っても流れはブラジルペース。日本は集中力の途切れからターンオーバーを繰り返し、簡単に得点を許してしまう。タイムアウトを早めに取り、軌道修正を掛ける。⑤鈴木、⑧堀、⑨藤谷等が走り始めるが、中々ボールが行き渡らずフラストレーションが溜まる。50対86で第3ピリオドを終了。

<第4P>

勝負は大方付いていながら「明日のゲームに繋げる」ことをテーマに日本も頑張り始める。リバウンド、ルーズボール等を徹底し、途中、主力メンバーはベンチに下がり、サブメンバーを起用。⑫野沢、⑥土井がシュートを決め、66対127で終了。日本は2連敗となる。

グローバル競技大会 男子ゲームレポート③

【予選リーグ③】対フランス 7月9日(木) 9:00～ 会場: Tip sport Arena Liberec

JPN 101	43-12	77 FRA	<得点> 日本 ④齊藤12点・⑤鈴木20点・⑨藤谷8点 ⑪横田9点・⑬中野28点
	26-13		
	17-24		
	15-28		

スタート: 日本 ⑤鈴木、⑦高橋、⑨藤谷、⑪横田、⑬中野
ブラジル ⑦GISSOT、⑩KENMOE、⑬SEJOR、⑭DVSARD、⑮YAHIAOLEI

大会3日目、過去、代表チームでは戦ったことのないフランスと対戦。200cmを越す選手が3名存在する大型チームである。今日は第1試合(フランス)、最終試合(ベネズエラ)とダブルヘッターであるが、どちらかに勝たなければ順位決定には進まず、勝負を掛けた試合となった。

<第1P>

ゲームの入り方こそ心配されたが今回続けている2-2-1オールコートゾーンプレスが機能し始める。相手のミスから日本はブレイクを立て続け、フランスがタイムアウトを取る。フランスはその後大型選手へ縦へのロングパスもあったが、⑪横田、⑬中野のローテーションが上手く、また、第1線の⑤鈴木、⑦高橋のプレッシャーもあり、相手が我慢できず、ターンオーバーを続ける。43対12で第1ピリオドを終了。

<第2P>

⑤鈴木、⑦高橋に代え、④齊藤、⑫野沢を初めから起用。プレッシャーを与え続け、⑨藤谷のインターセプトも成功する。日本は大差を付けながらも勢いは続き、⑧堀、⑩平松もオフェンスでは大型選手を相手に積極的に攻め続け、69対25で前半を終える。

<第3P>

大差を付け隙が出始めた日本はゲームの入り方に失敗し、ターンオーバーを続ける。前半のチームとは別物のようで、タイムアウトを取りベンチから指示を受けても対応できず。プレッシャーの掛け方も中途半端になり④齊藤を起用。何とか挽回はするも第3ピリオドは17対24となり、勝ってはいるが低迷ムードとなる。86対49で終了。

<第4P>

最終ピリオドに入ってもムードは高揚せず、必要としないファウルも嵩む。⑨藤谷がファウルアウトをし、⑩平松を起用。途中、⑥土井、⑧堀、⑫野沢も出場し積極的にプレイをする。最終得点101対77とし、日本の初勝利となる。順位決定戦に進むことが決定。

グローバル競技大会 男子ゲームレポート③

【予選リーグ③】 対ベネズエラ 7月9日(木) 18:45～ 会場: Tip sport Arena Liberec

JPN 58	12-23 12-24 18-24 16-27	98 VEZ	<得点>
			日本 ⑤鈴木18点、⑪横田18点、⑬中野13点

スタート: 日本 ⑤鈴木、⑦高橋、⑨藤谷、⑪横田、⑬中野
ベネズエラ 25GOLNANDES、29MARTINEZ、30MAGO、31NOARCO、
32RODIGUER

急遽、エントリーをしてきたベネズエラと対戦。若い選手が揃い、身体能力、技術力も高い。昨日ブラジルにも勝利しており、今回出場をしているチームとしては上位クラスである。

<第1P>

日本2-1-2-ハーフコートゾーンディフェンス、ベネズエラハーフコートマン・ツー・マンディフェンスで始まる。開始早々⑪横田、⑬中野の連続ポイントで日本は勢い付く。対するベネズエラは32 RODIGUERの3ポイントが決まり、その後日本のミスから4連続シュートを決める。逆にベネズエラに流れが傾き、32 RODIGUERを中心にプレイを展開する。日本は⑨藤谷、⑪横田がゴール下で得点し、12対23で第1ピリオドを終了する。

<第2P>

日本は2-1-2ハーフコートディフェンスでエリアを小さく守りリバウンドに専念する。ベネズエラの外角からのシュートアベレージは然程高くなく、途中までは成功と言える。但し、日本はオフense時のターンオーバーが響き、逆にベネズエラを勢い付ける。32 RODIGUER、25 GOLNANDESの3ポイントが立て続けに決まり、24対47と点差を離され終了。

<第3P>

第3ピリオドに入り日本は⑤鈴木3ポイントシュート、⑬中野がゴール下で積極的にプレイをし、得点を重ねる。対するベネズエラは32 RODIGUERを中心に上手くコントロールしながらプレイを展開していく。終盤に日本のミスが続き、29MARTINEZ、32RODIGUERが続けて3ポイントシュートを決め42対71で終了。

<第4P>

ベネズエラの勢いは止まらず、30MAGOの外角からのシュートが連続で決まる。対する日本は⑤鈴木3ポイントシュート、⑪横田のゴール下での力強いプレイを見せるも、最終的に58対98で終了。日本は1勝3敗とし、Aリーグ4位で次のゲームはBリーグ1位との対戦となる。

グローバル競技大会 男子ゲームレポート④

【準々決勝】 対ギリシャ 7月11日(土) 16:15～ 会場: Tip sport Arena Liberec

GRE 96	36-16	58 JPN	<得点> 日本 ④齊藤9点、⑤鈴木19点、⑬横田15点
	19-18		
	20- 8		
	21-16		

スタート: 日本 ⑤鈴木、⑦高橋、⑨藤谷、⑪横田、⑬中野
ギリシャ ⑦、⑨、⑩、⑪、⑭

2006年の世界選手権で対戦したギリシャであるが、当時のメンバーが大半残る。若手で挑む日本チームが今まで取り組んできたものをどこまでパフォーマンス出来るかがポイントとなる。準決勝進出に期待が掛る。

<1P>

日本2-1-2-オールコートゾーンディフェンス、対するギリシャはハーフコートの2-1-2ゾーンディフェンス。日本は昨日と違いゲームの入り方に失敗し、ターンオーバーを連続する。ギリシャは外角からの3ポイントが2本のみであり、後の点数はすべてブレイクの点数となる。日本はインサイドの⑪横田、⑬中野が得点し、⑤鈴木、④齊藤の3ポイントが決まる。36対16で終了するが、ターンオーバーが少なければ、互角の戦いであった。

<第2P>

第2ピリオドに入り、即⑬中野のインサイドでのプレイが決まる。トランジションが出来ないギリシャに対して速攻を仕掛ける日本であるがパスミスを連続する。対するギリシャは⑩が3連続レイアップシュートを決め、点差を突き放す。④齊藤、⑪横田が踏ん張りこのピリオドだけでは19対18と互角の戦いとなる。

<第3P>

第3ピリオドではギリシャの外角からのシュートが決まり始め、日本は早めにタイムアウトを取る。ベネズエラ戦同様にハーフの2-1-2ゾーンディフェンスとし、ペイントエリア内を固め、外角のシューターのみ対応する。然し、簡単にベースラインを抜かれ対応したところに合わせのプレイで得点を許してしまう。失点と共にオフェンスにも影響し、75対42と点差を離され終了。

<第4P>

⑪横田がインサイドで連続得点するも、ギリシャのペースは変わらず。⑦がレイアップ、ペイントエリアから連続シュートを決める。日本は残り5分、メンバーを変え⑥土井、⑩平松が出場する。④齊藤、⑤鈴木が最後まで戦う姿勢を貫くも、無情にもタイムアップとなり96対58で終了する。日本は準決勝に進めず、順位決定戦に駒を進める。

グローバル競技大会 男子ゲームレポート⑤

【準々決勝】 対オーストラリア 7月12日(日) 16:15～ 会場: Tip sport Arena Liberec

AUS 107	21-15 25-10 26-11 35-12	48 JPN	<得点>
			日本 ④斉藤9点、⑤鈴木19点、⑬横田15点

スタート: 日本 ⑤鈴木、⑦高橋、⑨藤谷、⑪横田、⑬中野
ギリシャ ⑤JOHNSON、⑦CLARKSON、⑨BENET、⑩HEREDITAI、⑯JEE

前回の世界選手権から7名の選手を入れ替えし、新生オーストラリアチームとして今大会に出場。互いに若手で今大会に臨んでいるが、

<1P>

日本2-1-2-オールコートゾーンディフェンス、対するギリシャはハーフコートの2-1-2ゾーンディフェンス。日本は昨日と違いゲームの入り方に失敗し、ターンオーバーを連続する。ギリシャは外角からの3ポイントが2本のみであり、後の点数はすべてブレイクの点数となる。日本はインサイドの⑪横田、⑬中野が得点し、⑤鈴木、④斉藤の3ポイントが決まる。36対16で終了するが、ターンオーバーが少なければ、互角の戦いであった。

<第2P>

第2ピリオドに入り、即⑬中野のインサイドでのプレイが決まる。トランジションが出来ないギリシャに対して速攻を仕掛ける日本であるがパスミスを連続する。対するギリシャは⑩が3連続レイアップシュートを決め、点差を突き放す。④斉藤、⑪横田が踏ん張りこのピリオドだけでは19対18と互角の戦いとなる。

<第3P>

第3ピリオドではギリシャの外角からのシュートが決まり始め、日本は早めにタイムアウトを取る。ベネズエラ戦同様にハーフの2-1-2ゾーンディフェンスとし、ペイントエリア内を固め、外角のシューターのみ対応する。然し、簡単にベースラインを抜かれ対応したところに合わせのプレイで得点を許してしまう。失点と共にオフェンスにも影響し、75対42と点差を離され終了。

<第4P>

⑪横田がインサイドで連続得点するも、ギリシャのペースは変わらず。⑦がレイアップ、ペイントエリアから連続シュートを決める。日本は残り5分、メンバーを変え⑥土井、⑩平松が出場する。④斉藤、⑤鈴木が最後まで戦う姿勢を貫くも、無情にもタイムアップとなり96対58で終了する。日本は準決勝に進めず、順位決定戦に駒を進める。